**平成２８年度活動報告**

日本ダイバーシティアート学会

2016年1月29日

日本ダイバーシティアート学会設立

2016年2月３日〜２月２９日

リオデジャネイロ視察

* ２月１７日　ベンジャミン・コンスタン盲学校校長のジョアン・フィゲレード校長と面会
* ２月１９日　盲学校にて特別授業を行う
* 盲学校より９月の１６２周年記念事業として、高橋りく個展を開催するための招致状を受ける。

2016年３月１日〜４日

フランス・パリ　事前調査

* パリ国立青年盲学院（Institut National des Jeunes Aveugles）とバランタン・アユイ協会を訪問
* ３月２日　パリ国立青年盲学院にマリス絵画と資料を提出
* ３月３日　バランタン・アユイ見学

2016年６月７日〜１２日

高橋りく個展 (会場：世田谷美術館 区民ギャラリーA)

* 主催：(社) 日本ダイバーシティアート学会マリスアートプロジェクト
* 協力：烏山ネットワークショップ、つくし会
* ９月のリオデジャネイロ・ベンジャミン・コンスタン盲学校でのプレ展示を公開。来場客より好評を博し、リオ開幕前の盛り上がりの一助となった。
* ６月１２日 チベットの砂曼荼羅を描く、テムジン活仏一行が来場。マリス絵画の前で祈りを捧げて頂いた。

2016年８月２４日〜２５日

ドイツ・ベルリン　事前調査

* ８月２４日　フランクフルト現代美術館訪問。資料を渡し、キュレーターと面会。
* ８月２５日　ダイアログ・ミュージアムの本拠地に訪問。この活動は世界各国に広がっており、日本にも店舗があり近年注目を浴びている。キュレーター不在であったが挨拶に伺った。今後の展開は未定。

2016年９月８日〜２３日

２０１６リオデジャネイロ・パラリンピック期間中アート企画・高橋りく個展

（会場：ベンジャミン・コンスタン盲学校）

* 好評により、当初の会期より１週間延長、合計２週間行った
* 主催：ベンジャミンコンスタン盲学校、日本ダイバーシティアート学会
* 後援：在リオデジャネイロ日本国総領事館
* 協賛：ルフトハンザ航空、ターナー色彩株式会社、山田写真製版所、アダムスジャパン
* 協力：東京都盲人福祉協会、日本視覚障碍者芸術文化協会、Yuchicom Comunicação, Comércio e Serviços Ltda.
* マリス絵画を１点が盲学校のパーマネントコレクションとなる。
* 総領事館の副領事より、オリンピックとパラリンピック期間中のアート企画の中で、最も良かったとのお言葉を頂く。

以下：リオ事業を総してまとめ（文：高橋りく）

　8 月26 日、リオ・デジャネイロを再訪した。オリンピックと大統領交代の騒ぎのあと、街は少し落ち着きを取り戻し、パラリンピックの準備がすすんでいた。〈南米一危険な街〉といわれるリオだが、警官隊の他軍隊3 万人が出動、観光客や選手の安全は確保されていた。ファベーラ( 貧困街) の人々への配慮も厳重になされていた。地元カリオカの若者たちは東京と同じくポケモンGOに夢中だ。中心部の公園・プラサ15 はポケモンGO の聖地、夕方5 時過ぎには携帯を片手に人々が集まってくる。珍しいポケモンが出ると一斉に大移動を始め, 一時の安全を満喫していた。

　パラリンピック期間、リオ中心部付近に位置するインスティチュート・ベンジャミン・コンスタン( 盲学校) に招かれ個展を行った。この学校は今年162周年をむかえ、今回のパラリンピックでは、サッカーや柔道、水泳等、たくさんのメダリストを輩出した名門校である。

　個展では、障がい者と健常者が共に鑑賞できる絵画を展示。絵画作品は、目の見えない人もわかる表現を用いている。濃い色ほど大きな砂粒、というように、異なる粒度の砂で色の濃さを表わす。作品の内容は花やシマウマの絵画、世界の国旗36 枚、そして特に注目が集まったのが、ブラインドサッカーのスコアボードだった。「さっき点数が入ったんだよね」「昨日は中国とやって勝ったんだよね」試合状況をリアルタイムで伝えるスコアボードの前で、弱視と全盲の子が会話を弾ませていた。子どもたちをはじめ、家族、友人、学校関係者、日系の方々、パラリンピック関係者等、多くの人に来場をいただいた。本展はパラリンピック初日にTV ブラジルの夕方ニュースでも紹介された。会期中特に印象に残ったのは、一部の子どもが毎日お気に入りの絵を見に来ること、それも彼等がまだ見に来ていない新たな友人をギャラリーに誘って訪れてくれたことだ。連れられて来た子達がまた自分の友達を連れてくる。絵画鑑賞に慣れていない彼等に新しい文化ができた。

　残念に感じたのは、健常者の姿が少なかったこと。私のプロジェクトは福祉活動ではない。このままの健常者の無関心さでは2020 東京パラリンピックも心配だ。私は現代アートから社会を変えたい。いかに鑑賞者の心を動かすかに重点を置いている。《目の見えない人も一緒に絵画を鑑賞することから、障がい者の人権を考える社会構築への啓蒙をしていく。》　ベンジャミン盲学校のグロリーニャ教授は語る。「私たちはブラジルの抱える闇を訴え続けている。食べることで手いっぱいの人々が多い中で、視覚障がい者の人権や雇用問題はなかなか改善されていない。」パラリンピック期間中、多くのメディアが障がい者の活躍を毎日伝えていた。しかし、大会終了と共に、テレビには健常者しか映らなくなった。パラリンピックは社会をどう変えていくのだろうか、メディアに再考を求めたい。　一人一人の意識改革のためには個人の小さなボランティア参加の積み重ねが必要だ。もっと東京は優しい街に姿を変えられるはず。今までボランティアには縁がなかった高校生、大学生や社会人層の参加が、2020 オリンピック・パラリンピック成功の鍵を握っている。

2016年９月３０日〜１０月５日

ドイツ・ベルリン　事前調査

１０月４日　西ベルリン盲学校 (Johann-August-Zeune-Schule für Blindeund Berufsfachschule Dr. Silex)を訪問。ベルリンには東西に１つづつ盲学校がある。来訪したのは西ドイツにある盲学校。この盲学校は、かのバランタンアユイが1806 年に設立した歴史ある学校。伺った時間には秘書室が閉じられていたため、教授に資料をお渡しした。今後、個展開催に向けて働きかける。

* **来年度のシンポジウムの準備及び実行の予定**

ヨーロッパ事前調査（２０１７年４月１日〜２１日）

* + ４月１日〜８日

場所：ドイツ・ベルリン

訪問先：西ベルリン盲学校、美術館

現状：西ベルリン盲学校と調整中。フランクフルト市を通して市内での展開の計画中。

紹介者：国際親善協会 常任理事

* + ４月９日〜１５日

場所：フィンランド・ヘルシンキ

訪問先：フィンランド盲学校、美術館

現状：国際親善協会の常任理事からヘルシンキ市(visit Helsinki)のMs. Saukkonen Marianneに依頼→盲学校(Swedish School)の校長Principal Mrs. Josefin Holmkvistと実務上のトップの方Principal Mrs. Josefin Holmkvistを紹介頂き、現在交渉中。

* + ４月１６日〜２１日

場所：フランス・パリ

訪問先：パリ国立青年盲学院

現状：2016/3に盲学校にマリス絵画と資料を提出中。今後、盲学校と調整を行う予定

アメリカ・ボストン（２０１７年４月２７日〜５月１０日）

* + ５月１日〜４日

場所：アメリカ・メリーランド

訪問先：メリーランド盲学校

訪問内容：リオの個展の際、メリーランド盲学校の校長が来場。その際にメリーランド盲学校でも個展の開催をしたいとの申し出を受ける。今後の活動についての打ち合わせ。

* + ５月５日〜１０日

場所：アメリカ・ボストン

訪問先：パーキンス盲学校

訪問内容：パーキンス盲学校主催の募金パーティーGALAでマリス絵画のオークションを行う予定。

高橋りく個展 in 宮城県塩釜市（２０１７年７月１日〜９日(暫定)）

* + 場所：ふれあいエスプ塩釜、塩竈市杉村惇美術館

内容：マリス絵画展示、マリス国旗プロジェクト・ワークショップ

第42 回ジャパンウィーク2017 年チェコ･プラハに出展

（２０１７年１１月１９日〜２３日）

* + 場所：チェコ・プラハ

会場：プラハ・コングレスセンター

内容：マリス絵画展示、マリス国旗プロジェクト・ワークショップ

主催：国際親善協会